

◆優秀賞（中津商業 原 由万里さん）

造形とデザインが大変よく考えられた作品である。竹刀部分は紙面と重なっている状態から、手前に離れて倒れるように動く（写真は途中まで開いた状態である）。コピー「近づきたい」が、遠近法によって前方に収斂しており、視線を集中させる効果を持つが、そのコピーにちょうど竹刀が重なって一部隠れる所から、手前に倒れていくのである。文字をそれに合わせた形状も、すっきりした色づかいも、極めて計算が行き届いた秀作である。

◆優秀賞（中津商業 古畑 旭さん）

大変POPらしい作品である。四角い紙面からの若干の逸脱、一部に紙を貼り付けた凹凸、言葉の図形化、現代社会を象徴する時計とスマホのワンポイントのイラストとその配置、そしてメインコピーに用いた効果的な文句と、その造形および吹き出しに入れての強調。中央に配置されたやや小さいコピーとその字体も、逆に目を引きやすいように思われる。色づかいも、上から下へ移るにつれて色あせるようになっており、内容をも表している。シンプルすぎず、かつ乱雑にならぬ、バランスの良い作品である。

◆優秀賞（土岐商業 伊藤 光来さん）

オーソドックスな形で、特に驚かされる造形があるわけではないのだが、自販機をイメージしたようなメカニカルな全体構成が大変目を引きやすい。応募作の中でこうしたインパクトを持っているものはあまりなかった。（おそらく）無意味に並んでいる「価格」も心に引っかかりやすい。色調も強調される黄色を基調にして、しかし全体はスマートで涼しげである。写真では見づらいが、下半分のコピーも目に入りやすい色調になっており、コピーでもアイキャッチができるように思われる。

◆優秀賞（名城大学附属 原 愛美さん）

デザインがどきっとさせる、アンビバレントな印象を与える作品である。書籍タイトルのみでメインコピーは無く、サブコピーは（読ませるといよりは）模様になってしまっているが、外郭の形と貼り付けてある羽およびその配置、全体の色調が、何かただならぬことが起こったという印象を与え、大変目を引く。紙の重ね貼りをを用いた作品は同校を中心に大変多く見られるが、本作は（おそらく食われた結果の）羽の散らかる様子がちょうどうまく表されることになっており、大変効果的に用いられた作品であると言える。

◆優秀賞（駿河総合 深澤 心彌さん）

形が美しい作品である。作品の基本は四角であるが、本作を含め今回もいろいろな形の作品が一定数あった。その中でも本作はスマートで目を引きやすい形状、すんなりと受け入れられる色づかいで、極めて整った印象を与えている。メインコピーは特にないが、それが却ってうるさくなくてよいかもしれない。基調の黒も微妙にスマートな色合いで、ワンポイントの五彩も美しい。なお造りがしっかりしており、実地の使用にも耐えるところもうれしい。